

国際社会学部

若松邦弘

Kunihiro Wakamatsu

国際関係コース

西欧政治、比較政治



西欧政治とは

専門は西欧政治で、自由民主主義の抱える課題を、先進民主主義—いわゆる「先進諸国」として民主政治の形式的な実現自体はもはや議論となっていない政治共同体—について考えています。西欧は、そうした政治共同体が「国」という単位で20近く、狭い領域のなかに集中し、多様な民主主義のあり方（パターン）を歴史的に提供してきたという、比較の観点から興味深い地域です。視角の根底にある政治社会という考え方は、国ごとの社会的な亀裂(宗教、階級、地域性など)の性格や起源を歴史にさかのぼって検討し、さらに環境やライフスタイルといった新たな対立にも注目します。また、そうして生じる多様な利害を調整・媒介する政治的な制度や慣習については、多数派と少数派の存在を念頭に、多様で異なる意見の自由な表明と幅広い包摂を実現すべく、国ごとに異なる多数決と全会一致のバランスが注目されます。

研究紹介

研究ではとくに、イギリスにおける政党や各種団体による政治的な競争の変化を、歴史、経済基盤、人口構成といった社会的な要素に照らして理解することを試みてきました。イギリスは西欧の近隣諸国と比べ、相対的には同質的な政治社会が存在するとされ、普通選挙制の拡大した戦間期以後は階級をほぼ唯一の軸とする政治競争が基調とされてきました。そうした競争の源泉と時系列上の振幅と長期的な変化を歴史と社会の観点から研究しています。とくに地域性に注目し、イギリス政治における地域的な多様性や都市部と非都市部の相違を歴史的観点から明らかにすることを目指しています。

担当授業

- 西欧現代政治論
- 政治制度・政治過程

関連する分野

- 西洋政治史
- 比較政治

出版物

- 『ポスト代表制の比較政治－熟議と参加のデモクラシー』
- 『地域のヨーロッパ－多層化・再編・再生』
- 『ヨーロッパ・デモクラシー－危機と転換』
- 『現代政治のリーダーシップ－危機を生き抜いた8人の政治家』
など



国際社会学部

比較政治 ゼミ



製鉄所廃墟（左）と大穀倉地帯（上）

どのようなゼミか

先進民主主義の抱える課題を政治学の観点から考えます。いわゆる「先進諸国」として民主政治の形式的な実現自体はもはや議論となっていない各国における昨今の政治上の問題を検討します。

キーワードは、政党(あるいは政党制)、利益団体、選挙、政治参加、地方政治、分権、政治改革、社会的亀裂(宗教、階級、地域性など)、環境、民族・移民、ナショナリズム、ポピュリズムなどです。担当者の元来の研究分野もあり、ゼミでは西欧諸国をメインにとりあげますが、それらと比較可能な、成熟した民主主義の国は卒論の対象となりえます。

卒論

- 西欧における極右勢力の変容
 - オランダ・コーポラティズムの構造変化
 - ドイツ緑の党の政策妥協
 - 西欧福祉国家の変遷
 - イタリアの政党システム改革
 - カタルーニャにおける自治の歴史的背景
 - 「移民」に対するフランスの右派政党の姿勢変化
- など

おススメの本

- 岡義武『近代ヨーロッパ政治史』
- 篠原一『ヨーロッパの政治－歴史政治学試論』
- トニー・ジャット『ヨーロッパ戦後史』



デモ（イギリス、上）と選挙ポスター（オランダ、右）